

成田ゆめ牧場が狙う企業ニーズの開拓 屋外Wi-Fiでキャンプ場をオフィスに

年々人気が高まるキャンプ場は、今や休日は満員状態だ。そこで次に開拓したいのが平日客。成田ゆめ牧場のターゲットは企業だ。テントサイトをWi-Fiエリア化し、アウトドアワーキング需要を掘り起こす。

文◎坪田弘樹(本誌)

「週末の利用は3月から12月まではほぼ満杯で、多い時には1000人程度のお客様に来ていただいている。現在のスタイルでは週末のテコ入れは頭打ちの状況で、伸ばすなら平日しかない。この残されたフロンティアを開拓するため、今回の企画を考えた」

開放感あふれるキャンプサイトをワーキングスペースとして提供する「Officeまきば」プランを6月から開始した成田ゆめ牧場ファミリーオートキャンプ場(千葉県成田市)。運営する秋葉牧場 観光事業部 部長の鈴木卓氏は、新プランの狙いをそう語る。

以前から企業の新人研修などに使いたいという要望を受けており、「潜在的なニーズはあるという見立てはできていた」が、コロナ禍でテレワーク

やワーケーションへの関心が一気に高まったことを受け、Officeまきばをスタートさせた。

企業に対して訴求するのは、オフィス街とは異なる非日常的な環境で仕事することで生まれる新しい発想や一体感などだ。「いつもと違うアイデアや発想が生まれたり、あるいは同僚との関わりかたが変わったりといった効果が期待できる」。また、感染症対策の観点でも、「三密」を避けながら対面で仕事ができる利点がある。

60GHz帯無線LANで中継

この“大自然の中のワーキングスペース”を実現するため、キャンプ場内に整備したのが屋外のWi-Fi(無線LAN)環境だ。

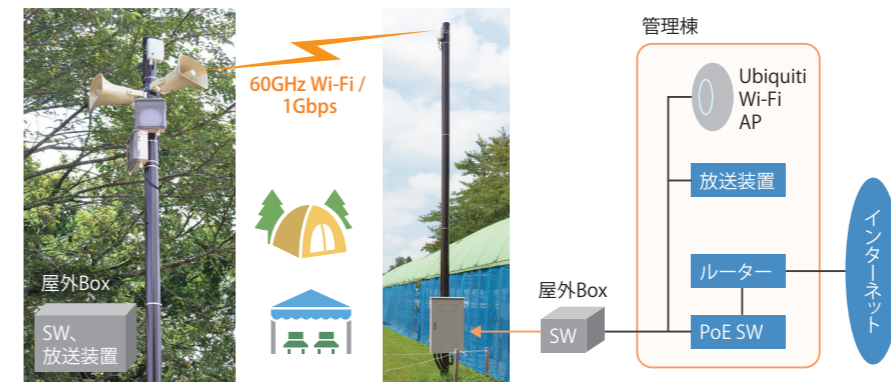


秋葉牧場 観光事業部 部長の鈴木卓氏

Officeまきばプランの利用エリアに当てている電源付きサイト(Cサイト)は、光ケーブルが来ている管理棟からは距離がある。そこで、60GHz帯を用いる屋外用Wi-Fiで中継し、Cサイト周辺をWi-Fiエリア化した。なお、Officeまきばの企画はミライトのソリューション提案に基づくもので、Wi-Fiシステムの提案から機器選定、システム構築・工事に至るまでミライトが担当した。

中継用の屋外Wi-Fiには、ソネットが取り扱うSiklu製の「Siklu

図表2 成田ゆめ牧場が導入した屋外Wi-Fi/スピーカーシステムの構成



MultiHaulシリーズ」を採用した。

通信距離は最大300mで、光ファイバー並みの最大1Gbpsの高速通信が可能だ。道路や河川をまたぐ通信や、ビル間をつなぐケースなど配線が困難な場所で多く利用されており、1対多のマルチポイント接続が可能なのが特徴だ。1台のBU(ベースユニット)で最大8台のTU(ターミナルユニット)と通信できる。

現状は管理棟周辺とCサイトをポイントツーポイントで接続しているが、今後「段階的にキャンプ場全域へWi-Fiを広げていきたい」(鈴木氏)と考えており、その際、管理棟を中心にマルチポイント接続することで効率的にエリアが拡張できる。電源のないサイトも、ポータブル電源や太陽光発電パネルを使えばWi-Fiエリア化することが可能だ。

クライアントとの通信には、ソネットが国内正規代理店を務めるUbiquiti製の「UniFiアクセスポイント」を導入した。屋内・屋外対応のWi-Fi 5 (IEEE802.11ac) アクセスポイントである。3×3 シングルユーザーMIMOをサポートし、2.4GHz 450Mbps/5GHz 1300Mbpsの高速

通信が可能だ。利用客が少ない平日では下り百Mbps以上のスループットが出ており(右上画像)、大容量ファイルのやり取りやWeb会議もストレスなく行える。

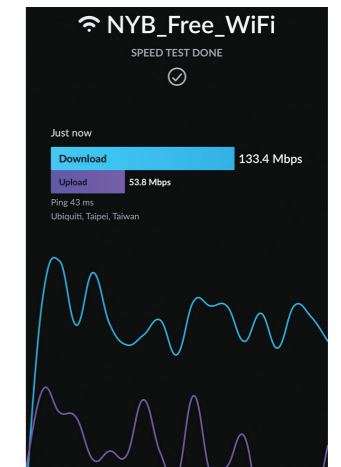
現時点ではOfficeまきば用のCサイトに2台、スタッフの事務スペースである管理棟に1台、テーブル・椅子等が置かれイベントもできる炊事場周辺に4台の計7台のAPを設置している。

今年2月の導入決定から3カ月余りでこの環境を構築し、6月下旬からOfficeまきばをスタートした。なお、4人までのグループプラン、個人利用プランの2つを用意しており、都内からの利用客もあるという。「新鮮な気持ちで働けた」など概ね好評だ。

混雑見える化も視野に

今回の屋外Wi-Fi導入には、Officeまきば利用客へインターネット環境を提供する以外の目的もある。スタッフの業務利用だ。Wi-Fiと併せて「お客様へのアナウンスに用いるため」の放送設備も導入した。

敷地面積が16万㎡超と広大なため、「放送設備が無いことで不便を強いられてきた」と鈴木氏は話す。例え



UniFiシリーズ管理用アプリによるスループット計測結果(平日午前、下り通信)。無償ソフトウェアで通信品質の確認や設定変更が行えるのもUbiquiti製品の特徴だ

ば、迷子が発生すればスタッフが手を引いて各サイトを周り、イベントを行う際には拡声器を持って軽トラに乗り集合場所・時間を知らせて回っている。Wi-Fiと放送インフラの整備が進めば、管理棟から全域にアナウンスできるためスタッフの負荷は大きく下がるはずだ。また、事務作業も「Wi-Fiでできるようになり便利になった」。

一般のキャンプ利用客に対するサービス向上にも役立てられる。場内には携帯電話がつながりにくい場所があり、Wi-Fiエリアの拡張に合わせてフリーWi-Fiサービスの提供も考えているという。

また、将来的にはWi-Fiインフラを使って「シャワールーム等の混雑状況をリアルタイムに可視化する仕組みもできれば」と鈴木氏は展望する。遠くのサイトを利用する客にとっては、予め混み具合を確認できれば利便性が高まるうえ、「密を回避するのにも役立つ」と同氏。ミライトの提案を受けながら、Wi-Fiインフラの活用範囲を広げていきたい考えだ。



Officeまきばは平日限定のプランで、タープや机・椅子などはレンタル可能。ヤギを傍に仕事ができる特別無料オプションも好評だ

図表1 中継用/クライアント通信用のWi-Fiアクセスポイント(AP)

【中継用】
Siklu製60GHz無線LAN AP

ミリ波(60GHz帯)を使用する屋外用の無線LAN製品。管理棟周辺から、キャンプ場内各所への中継に使用する

【クライアント通信用】
Ubiquiti製無線LAN AP

「Officeまきば」利用者が使用する電源サイト近辺、炊事場、管理棟に計7台設置。UniFiシリーズのスイッチ、セキュリティゲートウェイ等とともにUniFiコントローラーで可視化・管理できる

